

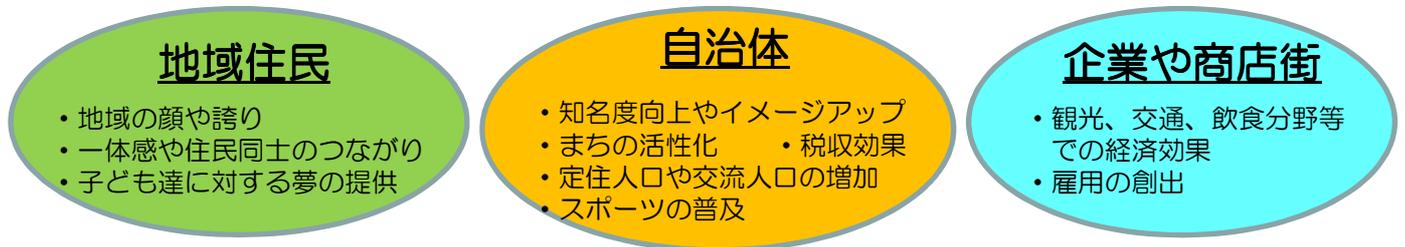
ふかだ  
**深田のぼる** 後援会ニュース

第9号 2013年12月発行

# 「スポーツを活用したまちづくり」の取り組みをご紹介します！

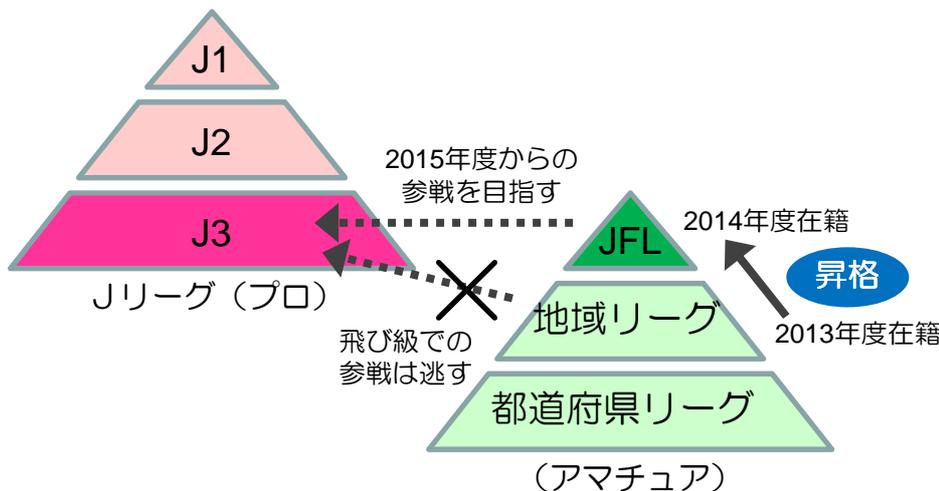
近い将来、**県東部初のプロサッカーチームが誕生**する可能性が高いことをご存じでしょうか？  
愛鷹広域公園多目的競技場をホームグラウンドとして活動する「アスルクラロ<sup>(※1)</sup>沼津」というサッカーチームが、Jリーグ参戦を目指す話を4月に伺ってからこれまで「**地域に様々な好影響を生む可能性を秘めた、地域振興の起爆剤になりえるもの**」との思いから参戦に向けた様々な支援を続けています。12月議会では「スポーツを活用したまちづくり」について、個人質問を行いました。

## ● プロサッカーチームの存在が地域にもたらす効果



## ● 支援活動の概要とJリーグ参入に向けた動き

	これまでの支援活動の概要	アスルクラロ沼津 Jリーグ参入に向けた動き
2013年4月	◆ Jリーグ準加盟申請に必要な、 <b>ホームタウン（沼津市）の支援文書</b> を取り付け	
6月	↓	・Jリーグ準加盟 <sup>(※2)</sup> 申請を行う
8月	◆ <b>個人・団体の支援拡大</b> に向けた取り組み	
9月		・Jリーグ準加盟承認を受ける
10月	● <b>知事を訪問</b> し、PR等の支援依頼	
11月	◆ 沼津市 <b>自治会連合会</b> への周知活動 (28地区連合自治会 会合にてご説明)	・J3ライセンス <sup>(※2)</sup> 承認を受けるも、2014年度からのJリーグ参戦は逃す
12月	● 12月議会にて <b>個人質問</b>	・2014年度からの「JFL <sup>(※3)</sup> 」参戦決定
2014年	↓	・好成績を残しての2015年度Jリーグ参戦を目指す



※1 **アスルクラロ**  
スペイン語で、アスルは“青” クラロは“薄い”の意味で、併せて“水色”、この地域の空や海の青さをイメージしているそうです。

※2 **準加盟・ライセンス**  
「準加盟」は、将来のJリーグ入りをを目指すクラブとして認められること、「J3ライセンス」はJ3に入るための免許のようなものです。

※3 **JFL**  
全国を舞台に戦うアマチュアサッカー最高峰リーグです。2014年度のJFLは、北は青森から南は鹿児島までを本拠地とする、全14チームでの戦いが行われます。

# ● 12月議会での個人質問（抜粋）

質問	沼津をホームタウンとしたJリーグチームの近い将来の誕生を見据え「 <u>活力あるまちづくり</u> 」のために、 <u>各方面との連携・協力を図っていく必要があると考えるが、市の認識は？</u>
答弁	スポーツ環境の整備や地域貢献等によるクラブ運営は、単にスポーツの振興のみならず、協働のまちづくりの一翼をなすものである。 <u>本市の新たな魅力や活力につながるものと認識し、活動を応援・支援し、市民一体となった応援体制の構築に向けたPRや機運の醸成などに努める</u> 。また、県東部初のプロチームの誕生に向けて、沼津のみならず <u>近隣の市町にも呼びかけていきたい</u> 。

## 更なる支援を続けます！

「おらが街のプロチーム」誕生による夢と活力あるまちづくりを目指して、私に出来る精一杯の支援を続けていきます。皆さまのご注目やご賛同を頂ければ幸いです。



# 災害発生直後の避難に有効な「ご近所同士の避難支援」を研究中！

12月議会では「災害時に避難する際に支援を必要とする方々を守る体制づくり」についても個人質問を行いました。

避難支援における留意点

### 避難支援体制の変化

ご近所同士

→

自主防災組織

→

ボランティア  
行政や災害

(時間)

災害発生

効果的・実地的な避難支援のためには、災害発生時に最も早く機能すべき「ご近所同士」の支援体制をより確かにしていくことが必要です。

ただ「隣近所に住む人の顔もよくわからない」状況では、助け合いもままなりません。

ご近所同士で

- 許せる範囲での情報共有を図り
- 互いの状況を緩やかに認識し合っ
- 声を掛け合える日常を作り出す

ことが、少しでも多くの命を救うことに繋がります。

(1) 避難の際に助けを必要とする方々を支援する体制は、時間の経過と共に変化していきます。

(広範囲が被災した場合は特に、行政の支援が行き届くには時間が必要です)

(2) 支援を必要とする者／支援を行える者が誰になるのかは、その時にならなければわかりません。

(主として支援を必要とするのは「高齢者」や「障がい者」の方々だと想定されています)

平常時は支援を行う側でも、ケガ等により支援を必要とする側にも変わることもある。

通勤や通学などの影響により曜日や時間帯によって、地域住民の数や構成が変わる。

乳幼児や妊婦、外国人など、隠れた要支援者の存在。



**他地域のモデルケースとなるような体制作りを検討していきます！**

私の質問に対して沼津市から「災害時要援護者避難支援計画の見直しの際に考慮する」旨の答弁を頂きました。ただし、計画があるだけでは具体的な行動にまで落としこめません。今後、ご近所同士の連携による支援の体制を整えて地域の防災力を高めている他市町の事例を参考にしながら、ご近所同士で助け合う体制づくりについて、研究していきたいと考えています。

## 深田のぼるよりひとこと

今回の個人質問で挙げた「スポーツを活用したまちづくり」は夢ある話です。様々な個人・団体と連携しながら支援の輪を広げていきたいと考えております。また「ご近所同士の避難支援体制づくり」は、思いを共にする方々を見つけながらじっくりと進めていく必要があります。どちらも焦らず・地道に取り組んでいきたいと思っております。また後日ご報告させていただきます！

ご意見・ご要望がありましたら、後援会事務局までご連絡ください。

